



旅する公務員

第 1 1 弾

埼玉県 横瀬町

農林課 森谷祐輝

「旅する公務員」の目的

◆「A面」的目的

磐梯町役場の情報システムクラウド化により
テレワーク環境が整ったことから
磐梯町と交流のある自治体に職員を派遣し
実際に旅をしながらテレワークをすることで生じる問題を顕在化させ
ひとつひとつ障壁を解消していく。



◆「B面」的目的

自治体間の交流を推進し
互いの先進事例を共有することにより
地域課題の解決を図る。



◆「ボーナストラック」的目的

先方自治体の職員の方ばかりではなく
関係者や団体の方々
により住民の方々と
昼夜分かたず楽しく交流し お友達になる。

「旅する公務員」 第11弾の概要

旅した期間 2023年9月25日（月）～2023年9月29日（金）

旅した職員 農林課農林係 主事 森谷 祐輝

旅した場所 埼玉県 横瀬町（振興課）

1日目

- 電車の遅れがあり、12時40分ごろに横瀬駅に到着。振興課の若林さんがお出迎えしてくれました。
- 町長、副町長をはじめ職場でのあいさつ回りをしました。職員の皆様は旅する公務員に慣れている様子。暖かく歓迎してくれました。
- 担当の方や副課長さんと町内を見学。町内の多くの施設で合板をオシャレに加工した木材が使われており統一感がありました。
- セメント工場と自然とのコントラストが印象的でした。山地には更に大規模な工場群あり、夜間も稼働しているため工場マニアにとっては良い撮影スポットになりそうです。



2日目

- 朝からニホンジカとイノシシの捕獲がありました。食肉に利用するため銃を使わず鈍器で止め刺しするのが印象的でした。
- 近所のジビエ加工場で手早く解体。組み立て式の簡易的な吊り下げ台は磐梯町にも欲しいです。
- 森林病虫害の現地確認、虫による樹木のナラ枯れが町内で初めて確認されました。感染力が強く会津地域にも拡大しつつあるため警戒が必要。
- 猟友会のベテラン猟師さんとお話しました。サルの群れによる果樹被害が大きく罠や柵設置も一苦労とのこと。一部の果樹園を地域の若者に提供し、一緒にブドウ栽培をするなど、非常に精力的で元気いっぱいでした。



3日目

- リモートワークがメインの日でした。
- 駅前の食堂で地元の野菜や紅茶を使ったランチを食べました。駅前に飲食店や商業施設があるのは良い。
- 駅から観光名所である芝桜まで歩いていけます。駅からの動線ルートづくりは大事ですね。
- 棚田の見学、彼岸花の撮影に来た観光客で賑わっていました。基本的なことですが、カメラ映えするスポットがあると集客しやすいそうです。
- 秩父市街で懇親会。副町長や地域おこし協力隊員及びOGにも参加していただき、7－8年前のDX黎明期からの磐梯町と横瀬町の関わりを教えてくださいました。





4日目

- 奥秩父地域での林業研修会に参加。
- ドローンを始めて操縦しました、操作は非常に簡単で面白い、林地調査や鳥獣被害対策にも応用ができ可能性を感じました。
- レーザーと360度カメラを複合した測量機器を使用させていただきました。山林の木の太さや本数を簡単に調べることができ、将来的には林地の資産価値や、森林作業道の整備や立木の密度調整を簡単にシミュレーションできるようになるとのこと。
- 奥秩父地域は傾斜がきつく、大きな谷地が広がっていました。一方で土壌が頑丈なおかげで、森林作業道の整備はしやすいそうです。



5 日 目

- あっという間に最終日です。
- 今更ですが庁舎内をあまり見てなかったので見学しました。吹き抜けの庁舎は開放感があって良いです。食堂スペースもあり様々なお弁当が注文できて羨ましい。
- 振興課でテレワーク。思い残すことがないようLACにも寄りました。
- 11時30分、町長、副町長及び振興課の皆様にご挨拶。
- 振興課のお二人に西武秩父駅の商業施設を案内していただきました。大変お世話になりました！！
- 17時10分頃、磐梯町駅に到着。

リモートワーク の感想



- OneDrive上でデータを扱っているため、事務作業は滞りなく行えました。
- TeamsやOutlookも使えるため職場内、町外との連絡も問題なく行えます。
- 電話や窓口対応が無いため、集中してデスクワークを行えました。



リモートワークで出来ないこと

- 課内の回覧文書が見れません。
- そのため自身が作成した書類の決裁状況や他の職員の業務が確認できないため、帰ったら浦島太郎状態になりそうです。
- 会計システムが使えません。支払い関係や予算状況が確認できないのは結構ストレスに感じました。
- デスク周りにあるメモ等が見れません。データ化すればよい話ですが、普段からリモートワークを前提とした書類の整理整頓を心がける必要があります。
- 当然ですが農業や鳥獣被害の現場対応ができません。

横瀬町の農業

- 経営体（担い手の状況について、個人22経営体、法人2経営体、集落営農1組織。
- 磐梯町以上に傾斜が厳しいため大規模農業には不向きに感じました。
- 田んぼは平野部の住宅地などに点在するくらい小さな規模で、専業農家は少ないそうです。
- ブドウやイチゴ、プラムなどの果樹が多く、町全体で観光農園を整備しています。
- 果樹に加えて紅茶の原料を栽培し、ソフトクリームやクッキーとして加工販売しており道の駅がにぎわっていました。
- 名所である寺沢棚田は駐車場やトイレも整備しており、彼岸花のカメラ撮影に多くの観光客が訪れていました。磐梯町の棚田も活用できないかな。
- 商品開発の多くは地域商社で担っており、地域おこし協力隊が中心となって様々なものをつくっています。



サル被害が深刻

- 町全体の農業被害金額は約400万円。うち約120万円がサルによる被害です。サル被害は、群れによって一度の被害が大規模となることから、対策意欲や営農意欲の低下が懸念されています。
- ブドウをはじめ、イチゴやプラムなどの果樹が多く栽培されていますが、サルによる食害に困っているそうです。
- 大型の囲い罠等を設置しているが慣れてしまい捕獲効率が上がらないそう。
- 複数の群れが生息していますが、発信機装着に適したメス個体が捕まらず、十分な群れ調査はむずかしい。谷の地形も相まって、電波を拾うのが大変そうです。
- 駆除や追い払いより、柵の設置により守りを固めることが重点を置いていました。ICT機器が付いた捕獲罠を用いて管理の省力化を図っています。





ニホンジカが大幅増

- ニホンジカによる農業被害は、令和3年度で約60億円（全国）となり、すべての動物の中で最も大きな被害を発生させている獣種です。
- 横瀬町では直接的な農業被害は少ないものの、生息数は大幅に増加しており早急な対策が必要です。
- 町では年間で100頭以上が捕獲されるため、ジビエ加工場を整備し食肉利用を推進しています。
- 駅や観光地の自動販売機でもジビエ肉の販売をしており、誰でも手軽に購入することができます。
- ジビエ活用による捕獲個体の受け入れによって、個体の処分に困っていた捕獲従事者の負担も減っているようでした。
- 鳥獣被害対策の地域おこし協力隊を令和5年10月より増員し、2名の隊員がジビエ活用を中心に被害対策を担当しています。





クマやハクビシン、 カワウ被害も深刻

- 被害金額ベースではカワウによる河川での稚魚の食害が約270万円で最も深刻です。
- 県全体でカワウのコロニー管理をする必要があるため町単独での対策は難しいのが実情。
- 鳥対策のためのテグスやワイヤーメッシュ柵も多くみられました。また電気柵管理の簡略化のため、ネット柵の上部に電気柵を設置した複合柵を設置しており、町内で合計3km近くの柵を設置しています。
- 埼玉県はハクビシンをはじめ中型動物被害が大きいため先進的なネット柵がたくさんありました。
- クマの出没は少ないですが、すべての小中学生にクマ鈴を配布しています。駅前にはクマ鈴のガチャガチャがありました。磐梯町にも普及啓発のために設置できればと思います。

まとめ

横瀬町振興課では、農業をはじめ観光業など幅広い分野の業務を担当しており、忙しいながらも楽しい明るい雰囲気でした。

横瀬町では、棚田や果樹園の整備など傾斜地を活かした農業を推進しており、さらに旧来の農業に地域商社や地域おこし協力隊などの新しい人材が関わることによって、非常に革新的かつ魅力的なアイデアが生まれているように感じました。短い期間では到底学びきれない多くのチャレンジや取り組みがあり、何度も訪れたくなる素晴らしい町でした。

一週間ありがとうございました！！

以上、「旅する公務員」第11弾

埼玉県 横瀬町 報告を終わります。

磐梯町役場 農林課 主事 森谷祐輝

